養成する人材（経営学部データ経営学科）

●学科の教育研究上の目的（学則第3条の2）

データ経営学科は、経営及びマーケティング分野の専門的知識と、経営戦略や意思決定において不可欠な経営分析に関する基礎的知識及びスキルを兼ね備え、ビジネスの現場においてこれら学部教育で培った能力を発揮できる人材を養成することを教育目標とする。

●データ経営学科が設ける履修モデルの目指す人材は以下のとおりです。

(1) 履修モデル 「経営・ビジネスリーダー育成志向」

企業そのものが大規模となり、その経営方法も複雑化しており、多くの業務をこなすことができる有能な人材がますます必要とされている。経営管理の職能を遂行することに関する専門知識と企業の社会的責任を自覚し、知識、技能、経験、判断力、統率力、行動力を兼ね備えた経営の専門家、常にビジネスの課題を発見しその解決策を模索しビジネスの最前線で活躍するリーダーの育成をめざす。

(2) 履修モデル 「経営コンサルタント育成志向」

企業に対して、経営戦略、組織・人事戦略、マーケティング、業務改善などを提案し、その実現へ向けてのアドバイスや支援をするための専門知識と実務能力を学ぶ。そこで学んだ専門知識や実務能力を利用しながら、経営上の様々な問題を収集したデータを分析し、課題を明らかにするとともに、解決策が提案できる人材の育成をめざす。

(3) 履修モデル 「事業・商品企画開発担当者育成志向」

製品やサービスの価値は企業が決定するのではなく顧客が決めることを出発点として、マーケティングに必要な消費者、企業、市場を複眼的に捉える能力を育成するためのベーシックとなる履修モデルを設定している。企業を取り巻く社会・経済、消費者が大きく変化している中で、理論や演習科目を通してマーケティングの本質を理解することにより、ビジネスの現場で役立つ課題解決能力や提案力をもった人材の育成をめざす。

(4) 履修モデル 「データ活用リーダー育成志向」

企業経営と企業における情報の仕組みを理解し、デジタル社会の変化に対応した情報収集やデータ分析方法を修得することにより、将来、ビジネスにおいてデータを活用した新しい企画立案力や分析能力を持つことを目指す。企業活動における様々なレベルでの意思決定に必要な情報の利活用について理解し、企業マネジメント全般で活躍する人材の育成をめざす。